

IV-224

風土を生かした道路づくりに 関する基礎的考察

京都大学工学部 学生員 ○村川 昌弘
京都大学工学部 正会員 佐佐木 綱
京都大学工学部 正会員 竹林 幹雄
京都大学大学院 学生員 東 徹

1. 本研究の目的

佐佐木ら¹⁾は地域性を持った文学作品に着目し、そこから喚起されるイメージ²⁾を文学内の言葉を用いた階層構造で表現し、個性のある街づくりの支援情報とする事を提案した。本研究はこの立場を継承しつつ、より土着性の強い文学作品である民話³⁾を用いて、その地方の民話に反映される無意識的な要求(欲求)に着目することで、地域の文脈(土地らしさ)に沿った道路づくりのための一手法を、言語連想の解析という観点から提案することを目的とする。

2. 実験及び分析手法の概要

民話に登場する言葉を基本として選定された刺激語を連想契機とする制限連想実験¹⁾を行った。ここで、連想は単純マルコフ過程であると仮定しており、制限連想用語と刺激語の要素は全く同一である。実験は民話を読む前と読んだ後という2段階で行った。この実験から言語間の想起関係を確率的に表現した推移確率行列を求める。更にこれを基に極限行列を求め、行ベクトルを基準化した「イメージウェイト」を得る事により、イメージの定量的把握を行った。また、類似度¹⁾とイメージウェイトを併用した「連想階層図」を描き、言語間の想起関係を視覚的に把握した。対象地域は、滋賀県の木之本町・伊吹町であり、「伊吹三郎と玉姫」に関する分析を行った。被験者は各地の住民である。刺激語は20語であり、被験者数は木之本町45人(女性10人)、伊吹町34人(女性10人)であった。なお、アンケートは配布形式で、平成3年1月31日迄に郵送により回収する事を行った。

3. 民話による地域性の違いの考察

(物語の概略)厄災をもたらす伊吹三郎が村の美女玉姫に恋をする。玉姫は村の事を思い、愛する弥彦を振り切って三郎の所へ嫁ぎ、村の災いを救う。

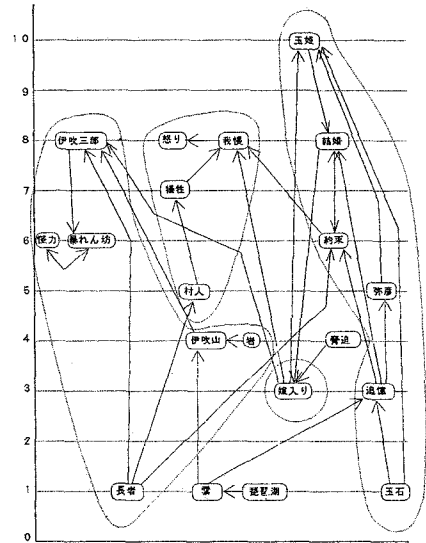


図-1・連想階層図・伊吹町(事後)

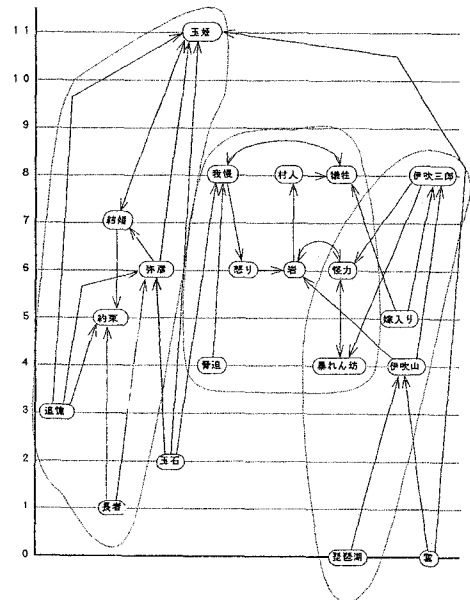


図-2・連想階層図・木之本町(事後)

木之本町と伊吹町の事後段階の連想階層図(図-1, 図-2参照)を見ると, 前・後者共に, 「玉姫」, 「犠牲・我慢」, 「伊吹三郎」の3つのクラスターに非常に似た形で分けられるが, その意味する意識の違いを比較考察する。まず, 「玉姫」に象徴されるクラスター群(図-3, 図-4参照)に関して, 木之本町では, 「結婚」, 「追憶」と言ったセンチメンタルな連想を生じる言葉がみられる。ここから, 全体のモチーフの縦系が, 『傷心』である事が推察される。そこには, 「やるせなさ/物悲しさ」と言った『消極的自己犠牲』が感じられる。一方, 伊吹町では, ヒロイン像が木之本町とは異なる。群間のつながりで「嫁入り」や「約束」と言った言葉が意味の交差点となって「我慢」や「伊吹三郎」が見いだされ, 肯定的な『積極的自己犠牲』と言うモチーフが表されている。また, 巨大なランドマークである「伊吹山」に関しては, 木之本町では「伊吹山→岩」であるのに対し, 伊吹町では「岩→伊吹山」となっている。これは, 地理的に極近くに「伊吹山」が見えている伊吹町と, 石材とを通じてイメージされる木之本町との違いがでてきていると考えられる。

4. 結論

同じ湖北地域にある2つの地域において, 同じ民話を実験材料としても, 地域によってその民話から受ける影響は異なる事が明らかになった。その異なり方は, 連想階層図の大きなクラスター群としては似た形をとるが, その意味する事が地域によって異なったイメージとして捉えられる, と言うものであった。

5. 今後の展望

地域によって, 同じ民話でも異なった意識上の影響を受けるのは何故なのかを他の風俗(祭など)を調べる事により, 包括的に調査する必要がある。またこういった地域特性を基にして, その土地らしさの違いを「地域らしさ/個性化の演出」と言った方向で道路づくりに応用するための次なる段階へシフトしていく事が, 今後の研究の課題となる。

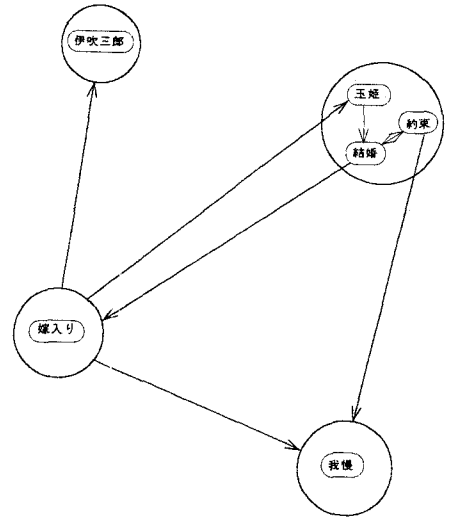


図-3 クラスター群の関係・伊吹町・事後

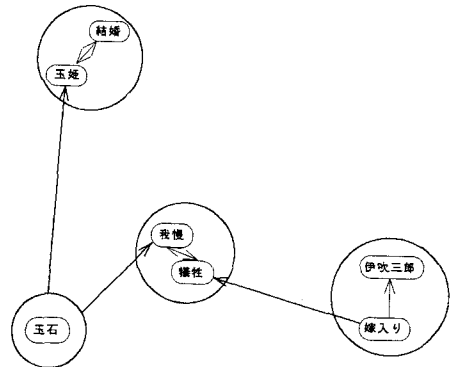


図-4 クラスター群の関係・木之本町・事後

〈参考文献〉

- 1) 佐佐木綱・竹林幹雄・東徹: 民話を用いた地域計画手法に関する研究, 第14会土木計画学研究講演集 pp221~pp228, 1991年
- 2) 厚東洋輔: 社会認識と想像力, pp12~pp23, ハーベスト社, 1991年
- 3) ウラジミール・プロップ; 北岡誠司・福田美智子訳: 昔話の形態学, 白馬書房, 1987年
- 4) エドワード・レヴィ: 場所の現象学, 筑摩書店, 1991年